

ソニーが被災地で大量解雇 仙台テクノロジーセンター縮小に固執

政府の復興構想会議に委員を出すソニーが、東日本大震災による被災を理由に、仙台テクノロジーセンター（宮城県多賀城市）の事業を大幅に縮小し、労働者2千人のうち、正社員約280人を広域配転、期間社員など約150人全員を雇い止めにする計画を進めています。多賀城市長が見直しを求めてソニー本社を訪問、国会は「復興に逆行する」と追及、首相の指示で厚労省が啓発指導に乗り出すなど、社会問題に発展しています。

雇用を守ることは地域の絆を守ること―地元中小企業が踏ん張るなか、世界のソニーが逃げるのか

7月22日の参議院予算委員会、日本共産党の山下芳生議員が、復興に逆行するソニーの『非正規切り』を取り上げました。

雇用を守って踏ん張る地元中小企業と対比し、ソニーのような大企業が被害を保険で補填されながら「さっさと逃げ出すなんて許されるか」「ソニーの中鉢良治副会長は首相が選んだ復興構想会議の委員だ。放っておいていいのか」と追求。期間社員がソニーを支え、被災後も真っ先に復旧に駆け付けたことも紹介し、計画をやめさせるよう迫りました。

野党から「東北の心が通じていない」「復興構想会議こそ雇い止めにしてろ」などの声が飛ぶなか、菅直人首相は「事情を（ソニー）関係者に聞く」と答弁。党派を超えて共感の声や拍手が上がりました。

労働局が啓発指導「労使の話し合いは極めて重要」

宮城労働局は「総理大臣の答弁、厚生労働大臣の命を受けた」として、労使双方に異例の啓発指導を行いました。「労使が話し合いを続け、解決することが極めて重要」と述べ、「労使の合意なしに一方的に雇用を打ち切ることはいけません」との判断を示しました。

期間社員は、業務請負、労働者派遣を経て、宮城労働局が過去の偽装請負を是正指導した09年に直接雇用されました。正社員になって当然でしたが、通算2年11ヵ月を上限に6ヵ月契約を反復更新する不安定雇用でした。会社は5月末、上限まで1年を残し、被災を理由に「3ヵ月契約＋慰労金」の雇い止めを通告。組合員は同意せず1ヶ月の暫定契約で

ソニーは多賀城から逃げるな 大企業が率先して被災地の絆守れ！

地元の中企業が歯を食いしばって雇用を守っているときに、体力のある大企業が「頑張ろう東北」と、雇用を守らなくてどうするんだ。若者たちに希望を与えないでどうするんだ。



質問する山下芳生議員 7月22日、参議院予算委員会

動画サイトを紹介しませう
ソニーの被災地解雇許すな
<http://youtu.be/i75S907dc2M>
「思いづけてくれた」
<http://youtu.be/ACSB-rj5qc>
22人の期間工の挑戦
<http://22samuraisunion.blog.fc2.com/>

団体交渉を続け、労働局の啓発指導を重く受け止めるとの答弁を引き出し、3ヵ月の期限が迫った8月末、10月以降も更新可能な1ヶ月契約を勝ち取りました。世論と運動が大企業・ソニーを動かしつつあります。

**再就職支援も非正規ばかり、フリーピン派遣も自治体ボランティアまでさせて雇い止めか
世論と運動で道理のない計画を撤回させよう**

ソニー仙台テクノロジーセンターは、1954年に設立された宮城県初の誘致企業。磁気テープの生産などで世界的企業に成長しましたが、昨年度は2度も早期退職を募集、リストラ「合理化」を加速していました。被害の少ない研究開発まで県外移設する今回の計画は、震災便乗のリストラです。ハワード・ストリンガー会長兼社長の報酬8億2000万円の半分以下で期間社員全員の雇用が守れます。内部留保は3兆円超。復旧・復興の体力は十分。2重3重に道理がありません。

インフラや生産の復旧も進んでいますが、事業縮小・雇い止めを固執しています。期間社員に再就職支援を提案しましたが、「3日間研修後にフリーピン」など不安定雇用ばかり。自治体ボランティア要請も。

ソニーに雇用と地域を守る社会的責任を果たさせるため、さらに運動と世論を広げていきたく、ご支援をお願いいたします。

宮城県春闘共闘会議
ソニー労働組合仙台支部
2011年9月発行
〒980-0022
仙台市青葉区五橋1-5-13
TEL 022-211-7002
FAX 022-211-7004

私たちの想いを聞いてください

ある組合員の家族からの手紙

はじめまして。

この度の期間社員大量雇い止めについて、組合に加入した期間社員の妻です。

私の想いを聞いてください。

私の夫は、5年以上にわたって、ソニーの為に働いてきました。

決して収入は多くありませんでしたが、無理してオーディオもテレビもソニー製品で揃えるなど、ソニーというメーカーのものづくりのスピリットが好きで、ソニーで働けることを誇りにしていることが伝わってきました。

当初派遣で働き始め、ラインの立ち上げ業務ということでソニーへの出向が決まった時は、すごく喜んでいたので覚えています。

2009年の派遣期間満了の後、期間社員としての直接雇用を打診された際は、大幅な収入減に不安を覚えました。ほかの派遣会社・社員が契約解除になっていく中、ラインの立ち上げから関わっている夫が、ソニーから必要とされていることが嬉しかったし、なにより、夫の愛するソニーが私たちを見捨てるはずが無いと思い、がんばれば社員になれるという人事の方の言葉を信じ、すぐに賛成しました。

昼夜を問わず働き、朝は家族の誰よりも早起きして出勤し、子供たちが寝静まったころ帰宅する夫を、心配しつつも誇らしく思っていました。

そしてあの震災が起きました。

復旧作業から帰ってきた夫の汚れた服を見て、これではいけないと震災後の混乱の中、作業服と長靴をすぐさま買いに走りまわりました。

結局、私がプレゼントした作業服は1週間ほどしか着る機会を与えられず、今も悲しく部屋の片隅にぶら下がっています。

大きな企業こそが、従業員を守っていかれる力を持っており、守ってもらえるからこそ、会社を信頼して頑張ってきた従業員の力で、会社が大きくなれたのだと思っています。

しかし現実はいく...

今回のソニーのやり方に大きく失望しました。

大きな企業なら、従業員の雇用を守ることはもちろん、震災の影響で職を失った

方々の更なる雇用創出など、地域への貢献が優先的であってしかるべきだと思います。

そして、上の決定には逆らわない・逆らってもどうしようもないという、日本の若者のあきらめの風潮に不満があります。

今回、夫たちが始めた挑戦は、あきらめることなく大好きなソニーで働き続けたいという思いの現われのように感じます。

この状況で、就職先が少ないとか、そういった事情はもちろんありますが、何よりも感じるのは、どれだけソニーが好きか、ということです。

わたしの周りの反応は、おおむね好意的にとらえ応援してくれています。

しかし、他の組合員の方の周りの反応は、批判的なことも。

どちらの気持ちもわかるし間違っていないでしょう。

ただ、自分達が一生懸命働いてきた事への誇りや自信を持ち、いま置かれている理不尽で無意味な状況に異を唱えることは、恥ずべきことでも、後ろ指を指されなければいけないことでもない。

私も、会社とたたかってきた経験があります。私の場合はアルバイトでしたが、突然の解雇通告や、妊娠をきっかけとしたそれとない退職の勧告など。

しかし、毅然と立ち向かい、状況を変えてきました。

あきらめることなく交渉を続けた結果、良い方向へと向かった経験があります。

だからこそ、夫が組合に加入すると聞いたとき、状況に甘んじることなくあきらめない人なんだと、自分の信念を持った人なんだと嬉しくなりました。

私の夫をはじめ、今回立ち上がった22人は、正規社員として活躍できる人たちだと思います。

ソニーの創業者の言葉があります。

「ソニーに関係のあるすべての人に幸福になってもらうことが私の念願であるが、とりわけ社員の幸福は、私の最大関心事である。」

なんといいても社員は、一度しかない人生の一番輝かしい時期をソニーに委ねる人たちであるから、絶対に幸福になってもらいたい。」

今一度、創業者の理念・信念を思い出し、心に刻んでほしいと思います。



想いがつづけてくれた 山下質問を傍聴

7月22日の参議院予算委員会、ソニーの震災リストラ問題を取り上げて頂いた日本共産党・山下芳生議員の質問を傍聴しました。

雇用を守ることは地域の絆を守る こと—地元中小企業が踏ん張る か、世界のソニーが逃げるのか

宮城県気仙沼市の水産加工会社。9つの工場のうち8つの工場が津波で全壊しながら、800人の従業員を1人も解雇せず、「雇用を守ることは地域の絆を守ること」という経営者の信念が紹介されました。

「地元の中小企業が逃げずに雇用を守っているのに、大企業がさっさと逃げ出すなんて許されるか」「ソニーの中鉢副会長は、首相が選んだ復興構想会議の委員だ。単なる個別企業じゃない」—たたみかける質問に、野党議員から「とんでもない」「東北の心が通じていない」「復興構想会議こそ雇い止めにしろ」などの声飛び、菅直人首相は「事情を関係者に聞く」と答弁しました。その瞬間、党派を超えて共感の声や拍手が上がりました。

非正規でも仕事の中身と志はプロ フェッショナル 震災の真ただ中で切り捨て復興 ができるのか

山下議員は期間社員の想いを代弁されました。

雇い止め通告された期間社員の多くは20代から30代の若者。自ら被災しながら職場に駆けつけ復旧作業に当たったのはなぜか。山下議員はこう続けます。「ソニーで働いていることにみんな誇りを感じているからだ」「生産ラインを立ち上げ、正社員に仕事を教え、作業効率の改善提案も何度も採用された。世界的メーカーの品質を自分たちが担っているという自負があった」「雇用の姿こそずっと非正規だったが、仕事の中身と志はプロフェッショナル。だから自分たちの工場を守りたいと駆け付けた」「そんな彼らを震災の真ただ中で切り捨てて復興なんてできるはずがない」